

第3回 働く力を育む

講師：よこはま・自閉症支援室 篁 一誠氏

はじめに

今日は最終回で、働く力を育むというテーマでお話させていただきます。お手元のレジメをご覧くださいながらお聴きいただきたいと思います。

自閉症の方々が学校生活を終わられて、どういう形で社会に参加をしていかれるか。進路という表現がいいのかもしれませんが、まず自閉症の方々が、社会にどんな形で参加をしていかれるか。最初にそのことをお話していこうと思います。

レジメに書いてあります言葉は、昨年度施行されました障害者自立支援法という法律で、これから名称が少しずつ変わっていく可能性があります。どちらかという、今まで使われていた名称をそのまま使っておりますので、今後この表現の仕方は変わってくるだろうと思います。

1

参加する状況

〈1〉 就 労

お子さんの持っている能力とか、それまでに獲得されたものによって、社会への参加の仕方がいくつかのパターンになっていきます。

就労という形で社会に参加される方々、その場合にも一般就労と福祉就労との2つのタイプがあります。一般就労という形で参加をされる方の割合というのは、大変少ないだろうと思います。基本的には福祉就労という形で、企業、事業所内で働く。この福祉就労というのはご存知のように、どの企業も一定の割合で障がいのある方々を雇用する義務があるわけで、愛の手帳を持っている方々は、そういう対象としてカウントされています。

実際の仕事の内容で言いますと、清掃業務、これは割合としては一番多いと思います。事務所とか倉庫、それから建物の中の清掃業・・・なぜ障がいのある人たちは、そういう仕事をしなくてはいけないのかと思われる方もおられるかもしれませんが、この清掃業務というのは一番わかりやすいんです。手続きがきちんとしている。使う道具も明確になる。どこまでやれば終われるか・・・見通しもつきやすい。この清掃をする、担うというのは割合多いと思われれます。

あるいは、郵便物の仕分け等、そしてそれぞれの部署にそれを届ける。企業の中で、それから郵便局に行けば、郵便物の仕分け、配達の仕事がありますが、もし内容物で区別をつく方々の場合ですと、こういう仕事が出来ます。あるいは、事務所の中で不要になった書類、あるいは個人情報、こういうものの管理上、シュレッダーにかけなければいけない。結構たまったりする仕事なんです、シュレッダー操作という仕事もあります。

あるいは、スーパーマーケットで仕事をしている方々もおります。接客業というのは、自閉症の方々にとっては大変難しいものがありますが、裏方と言いましょか、商品の管理ということ・・・たとえば、売り場で商品がどれだけ減っているか、あるいは納品された商品をどのように区分けをしていくか・・・こういう在庫管理という仕事があります。

数字が読める方ですと、賞味期限の仕事を専門にやっている方もいます。それから、お野菜を区分けして、袋詰めをしていく仕事をやっている方もいます。こうした仕事というのも、やはり、どこまでやれば終われるのか、彼らの特性というものを十分に承知して、支援の仕方、関わり方を配慮する企業があれば、こういう職業が成り立っていき、仕事が成り立ちます。ですから絶対条件として、自閉症の方々の特性をわかって下さらないと、とても無理があります。

たとえば、急かす言葉を使ったり、手続きが急に変更されたり、あるいは、終わるはずの仕事が追加されてしまったり、こういうことは自閉症の方にとっては、とてもわかりにくくなってしまいます。

それから企業の側で自閉症の方々のことが十分のみきれない、理解出来ない。そういう時には、ジョブコーチという橋渡しをする人たちの存在が必要になってきます。これも制度として徐々に求められて、就労するためにはジョブコーチと一緒に職場の中で橋渡しの役目をする。しかし、ずっと付いているわけにはいきませんので、一定の期間、会社の人たちにどういう特性を持った人たちなのか、どう関わればいいのか、仕事の組み立てはどうしていったらいいのかということを伝えていき、また、そこで働く自閉症の方々にも具体的な手続きをひとつひとつ教えていき、覚えれば手を引いていく、そういう制度をジョブコーチと言います。

なかなかジョブコーチの人数そのものが多くはありませんので、今後どういう形でこの制度が安定するかは、ジョブコーチの人たちが増えていくことが必要になってきます。

実際にひとりで仕事をする、あるいは、何人かの方が集まって仕事をする、いろんなスタイルがあります。会社によっては特例子会社という名称で、障がいのある方だけが集まって具体的に仕事をしている、そういうところも増えてきました。

それから、ある程度のマニュアルが出来ていて、一定の中で仕事が出来ると今一番多いのが、マクドナルドの中での仕事です。あるいは、ファミリーレストランでの厨房で食器を洗うような、具体的なマニュアルがあって、そのマニュアルどおりに進んでいけばいいということで、ある程度仕事出来る場合もあります。

私の関わった方の中で、マクドナルドで仕事をされた方がおられました。手先が器用な方で、一生懸命いろんな仕事をしていました。一番最初にフィレオフィッシュというものを作りましたが、彼はペッチャンコにつぶしてしまいました。店長さんは叱らずに、「実際にこういうふうには、この高さで包んで下さい」とお手本を見せてあげました。そこで叱ってしまうとうまくいきませんので、目で見てわかるように、ちゃんと説明をしました。

こういう流れというのは、お客さんが来て注文をしてはじめて出来るわけですから、いつも同じ数をやればよいというわけにはいきません。

サービス業というものに携わる時に、とても難しさがあります。そして時間によって忙しくなる。あるいは、特定のものだけの注文が来るだけではなくて、いろんなことが出来なければいけない。「私はビックマック専門です」というわけにもいかないでしょうから、その中の仕事を覚えるまでに時間が必要になります。この時間が保障されれば、本当に丁寧に仕事をしていけるようになります。

ファミリーレストランで食器洗いを仕事にされた方もいます。この方は途中でどうしても、お仕事が続けられなくなったんですが、続けられなくなった理由というのが、洗剤の使い過ぎだったんです。たぶん、ご家庭で食器洗いのお手伝いをしている自閉症の方々の場合ですと、往々

にしてあります。たくさん洗剤を使ってしまう。下手すると一回の食器洗いで、洗剤1本使ってしまうというお話がありました。こういう方は仕事には入れません。

ですから、ものを教える時に、あとでお話しますが、きちんとそこにやり方というもの、あるいは本当に必要なこと、こういうことが育たないと、いくら力があって出来るとはいつても、企業の中で仕事をしていくことは大変難しくなる問題があります。

文字が読めるということが前提になりますが、郵便局の仕分けの作業、あるいは、宅急便の区分け作業、こういうものも自閉症の方々にとっては、そんなに難しい仕事ではありません。宅急便も方々にいろんな会社が営業所を持っていますので、その地域ごとにコード番号があって、その分類をしていくわけです。

これは自閉症の方々にとっては、とてもわかりやすい明確な仕事で、私たちは積極的にこういう仕事を、自閉症の方々に扱いしていくことを考えているのですが、残念なことに長続きしないんです。なぜ長続きしないのか・・・いろんな事業所を廻って気がついたのは、言葉が大きくて荒々しいんです。特に時間で勝負をするような人たちですから、もたもたしているとドヤされてしまう。

せっかくいい仕事なんですけど、なかなか力が発揮されなくなってしまう。こういうことも、周りの方々の理解がないと、上手いかないかもしれません。

清掃業に携わっている方も大勢います。採用されても、やはり時間をかけて、ひとつひとつ話をしていかなければいけませんので、入ってすぐ仕事が出来るというわけではない。道具の使い方とか 様々なことを、昔で言えば丁稚奉公という言葉がありましたけど、基礎から学んでいく。これも教える方の持っている姿勢、言葉遣い、こういうことによってうまくいく方と、途中で挫折する方とで分かります。

昔、関わった方で、とても優秀な家具職人になった方がおられます。